

女性会連盟ニュース

ひびき



第 24 期 主題「神の恵みによって共に生きる」

～喜び、励まし合い、思いを一つにし、平和を求める～

主題聖句：ローマの信徒への手紙 6 章 8 節

発行：日本福音ルーテル教会 女性会連盟

中原通江

神学生と共にマレーシア・サバへ

会長 中原 通江

26 年の長きにわたって支援を続けるサバ神学院を、連盟役員ら 6 名で訪問しました。今回は、日本ルーテル神学校の神学生 1 名を同行することができました。このことは「支援から交流へ」を具現化することです。

今までも LWF（世界ルーテル連盟）からルーテルの神学生をサバへ研修派遣したことがあり、サバからも奨学生が来日したことがありました。今できることで、お互いの交流を図ることは重要なことであると思います。

サバは支援を始めた当初とは違い、目覚ましい発展を続けていますが、マレー系の教会では運営が苦しく、集会所の建設が中断している現状を目の当たりにしました。それでも若い女性牧師を中心に教会員一同が、伝道の御業に励んでおられました。そこには確かに主の栄光が現れていました。

最終日には、元奨学生が牧会する教会に、12 名もの元奨学生が集まり、立派な牧師となった頼もしい姿を見せてくださいました。楽しいひとときであり、大いに力づけられた交流会でした。

今、BCCM（マレーシア バーゼル キリスト教会）ではアフリカや中国への伝道に、牧師を派遣しています。

私たちの小さな支援は、世界伝道へ向けての応援でもあります。

＝サバ訪問スケジュール＝

10 月 5 日(土)

- ・サバ神学院(STS) を訪問
校内を見学後、トゥ・エン・ユー校長と奨学生 4 名と懇談
- ・マレー系教会の女性会「総会」に部分参加

10 月 6 日(日)

- ・聖日礼拝(中国語)に出席：コタキナルの教会

10 月 7 日(月)

- ・青年部担当牧師の案内で、山の上にある 2 教会を訪問
- ・BCCM（マレーシア バーゼル キリスト教会）本部で
ブン・スーン・チョン代表らと面談

10 月 8 日(火)

- ・女性会リーダー 5 名と懇談
- ・卒業した奨学生が牧会する教会にて元奨学生 12 名と交流
- ・女性たちの手仕事工房に立寄り

神学生の目から見たサバ

～ サバ訪問記 ～

日本ルーテル神学校 4 年 森下 真帆

この度、女性会連盟からのご支援をいただき、サバを訪問させていただきました。
その記録と感想を、簡単ではありますが、ご報告させていただきます。

私たちがマレーシアのサバに到着したのは
10 月 4 日 夜遅くのことでした。ケンピン先生ご一家に歓迎していただき、ご自宅に泊めていただきました。



10 月 5 日、サバ神学院を訪問しました。
ここでは 100 人以上の神学生が学んでいるようで、さっそく中を案内していただきました。



サバ神学院



奨学生と森下神学生

神学院の設備は、充実しています。

ガラス張りの図書館に、1000 人入る講堂、バトミントンコートが付いたレクリエーションルームもあります。学生寮や家族寮も完備されていて、三食付きの環境で神学生たちは勉強に集中することができるそうです。



その後、日本福音ルーテル女性会連盟からの奨学金を受けている現役神学生の皆さんとお会いし、懇談しました。

今年 奨学金を受けているのは 4 名で、女性 2 名と男性 2 名。年齢も 25 歳から 36 歳まで様々です。様々な経緯を経て神学校に入学されたそうですが、サバ神学院ではお金の心配を一切せずに勉強に打ち込むことができるようで、それぞれ感謝を述べられていました。

私にとっても大きな神学校を見学したり、年齢が近い神学生たちと交流したりできる貴重な機会となりました。

10 月 6 日、この日は日曜日でしたので、現地の教会で主日礼拝に出席しました。

女性会連盟が交流を続けている BCCM(マレーシアバプテスト教会)は、中国語部門、マレー語部門、英語部門の三つの独立した部門を持ち、それぞれの部門ごとに教会を運営しています。この日、私たちが参加したのは中国語部門の教会で、夕礼拝なども含めた、すべての礼拝出席を合わせると 1000 人を超える大きな群れでした。出席確認も最新式で、信徒がそれぞれ IC カードのようなものを持って、それを機械にかざす形で行われていたのが驚きでした。このような教会からの強力なサポートが、サバ神学院の神学生を支えています。



礼拝の中での聖歌隊



日本語で讃美歌披露

10 月 7 日、この日はマレー語部門のいくつかの教会を訪問しました。山間部にある小さな教会で、信徒は数十人、一人の牧師が二つの教会を兼牧することも多いようです。BCCM にとっては、そのような状況が悩みの種のようにありましたが、日本の教会から見ると、むしろこれが普通に感じます。教会の雰囲気も、どこか日本の教会に似て家庭的です。

信徒の皆さんが採れたてのフルーツを用意して歓迎してくださいました。帰りには手作りのかごのプレゼントも。私たちも「テレマッカシー(マレー語で「ありがとう」)」という言葉覚えて、温かい交流のひと時を持ちました。



一方で気になったのはマレー部門の教会の貧しさです。私たちが訪問した教会の中には、牧師館を建設中にも関わらず、資金不足から数年間それが滞っているという教会もありました。そのことをケンピン先生に伝え、
「BCCM の中ではマレー語部門が一番貧しいので、中国語部門と英語部門が金銭的なサポートをしています。同時に私たちは、彼らに自立を期待しています。要するに、ただお金をあげるのではなくて、養豚、養蜂、手仕事などの産業を活性化させることを通して長期的な支援を意図しています。」とのことでした。

実はマレーシアの国全体においても、中国系の人とマレー系の人の所得格差は深刻な問題で、政府はマレー系の人々にかんがりの優遇措置を取っているものの、なかなか格差が解消しないとのこと。

ただ支援するのではなく自立を、という言葉の背景には、多民族国家ならではの難しさがあるように感じられました。

その後、私たちは BCCM の代表者の方を訪問しました。挨拶を交わし、BCCM の歴史について説明いただきました。そこで話題になったのは「イスラム教の国」としてのマレーシアで、キリスト教を伝道するということの難しさです。

キリスト教に対する政府の圧迫は、かなりのもので、イスラム教徒にキリスト教を伝道するのは違法であるほか、最近では牧師が誘拐される事件も起こっているとのこと。

厳しい環境の中で伝道が続けておられる方々がいることを改めて思い知りました。

10月8日、最終日には再び中国語部門の教会を訪ねて、過去に女性会連盟からの奨学金を受けて牧師になった先生方とお会いしました。その数なんと 10 人余り。皆さん各地の教会でご活躍とのことでした。昼食を共にしながら色々なお話を伺いました。若い先生が多かったこともあり、話の内容は、日本でも聞き覚えがあるものでした。牧師が独身でいることのプレッシャー、牧師館の住み心地、退職後の住まい、休日を確保する大変さ…。同年代の牧師との会話は、私にとって楽しく、また刺激となるものでした。



その後 空港に向かい、ケンピン先生ご夫妻に見送られてサバを後にしました。充実した日々であったと思います。

改めて、このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

この経験を活かして、残りの神学校生活に励んでまいりたいと思います。

ケンピン先生のご紹介

私たち女性会連盟とサバ神学院の窓口を、長年果たしてこられたケンピン先生は、牧師の娘として誕生。アメリカの教牧学博士を取得し帰国後、**BCCM の女性牧師第 1 号**に。



神学院でも教壇に立ち、数多くの牧師を育成。数年前に定年退職されましたが、女性牧師のリーダーとして後輩の指導に当たられています。

BCCM の牧師は、男女同率だそうです。ケンピン先生は文字通り、その先駆者です。

現在は定期的に中国に出向いて中国伝道にも力を尽くしておられます。ユーモアと気遣いのご夫君のサポートも見事です。

山の上の教会を訪ねて

副会長・書記 坪本 告子

大通りから見える山にあるマレー系の 2 教会を訪れました。一つ目は、礼拝堂の隣にある、柱と屋根に土間というオープンな場所に、15 名ほどの教会員が出迎えてくださいました。二つ目の教会は、礼拝堂の隣に集会室が建築半ばのようで、「資金がなく中断しています」と。この 2 つの教会を兼任されている女性牧師が、明るく頑張っておられました。

初めて目にする果物がテーブルいっぱいに盛られ、食べ方を教わりながらの交流でした。

女性たち手作りの工芸品などをお土産にいただき、恐縮しました。少ない設備の小さい建



物でしたが、サバの方々の純朴さと明るい笑顔に、たくさんのエネルギーとパワーを体験させていただきました。

女性会連盟とのつながりが、次世代にもありますように願っています。

BCCM 事務局を訪問

文書 澤田小枝子

コタキナバルの教会での聖日礼拝に出席した翌日、**BCCM**(マレーシア バーゼル キリスト教会)の事務局を訪問しました。まずは **BCCM** を知るためにと **DVD** を視聴。成り立ちや歩みを説明したものです。その中で、アメリカのルーテル教会やオーストラリアのルーテル教会からの支援を受けた時代があったとあり、確認のため質問しました。すると「日本のルーテル教会からの支援も受けています」と、即座に付け加えられました。

ケンピン先生と日本のルーテルの姉妹との出会いは、支援開始以前で、**LWF**(世界ルーテル連盟)の集まりであったことも知りました。

主が結んでくださったこのご縁。将来も祈り合える関係であることを主が望み、それが私たち自身の力になるのでは、と思いました。

編集後記

今回のサバ訪問の実現は、今春ケンピン先生ご夫妻来日の際、サバ行きを誘われた北海道の近藤雅子さんのお働き(サバとの事前の打合せ等々)と、彼女の娘さんが通訳を引き受けてくださったこと、神学生を同行する提案を受け入れてくださった日本ルーテル神学校長の石居先生、そして以前サバへ行かれた諸先輩方のアドバイス、皆さまの祈りによるものです。この場を借りて感謝申し上げます。(S)